



冬を迎へようとして

水野 仙子

—(櫻田本郷町のHさん)—

今日はほんとうにお珍しいいい日で、お歸りになつてから「お前は今日よつぽどどうかしてゐたね。」といはれましたほど、私の調子が狂ひました。ほんとうにあなたはめつたにお出ましにならないので、私どものやうに引越してばかりゐますと、ついあなたが御存じない家も出来てまゐります、今日はほんとうに嬉しい

ございました。

けれど、これといつて同一つ取りとめたお話もいたしませんでしたのねえ、狭い私の家中を駆け廻つてゐるまあちゃんとおせつちやんの遊びは、二人のやりかけた話をたび／＼さらつて行きました、私はたゞ、あなたが(このあなたが、とても字では表はせないけれど、語氣を強めて言つてゐるのですよ)兎角まあちゃんに母親らしい注意をひかれがちなのを、不思議さうに珍らしさうに眺めてゐました。ほんとにまあちゃんの大きくおんななさいましたこと、今更らしく思つてみれば、あなたもK子さんも立派な母親なんですね。子さんとこのせつちやんたら、この頃では私の家へひとり遊びになど来るやうになりました。門の戸が開いたと思ふと小さな足音がして、いきなり縁側のところで「さいならー」など言つてゐます。あなた方はほんとうに、愛すまいとしても愛せずには居られないやうなものを持つていらつしやいます。深く、強く、眞摯にものを愛することが出来るといふ

のは、なんといふまあ合せなことせう！ それなのにあなた方は、いつも自分一人が子持ちになどなつて割がわるいのだといふやうな顔をしていらつしやるほんたうに罰があたりますよ。だけど、子供なんか要らないなど仰言るのは、要するに空虚な言葉にちがひありません。何故といつて、今まあ假りにある禍ひが来て、あなたのその要らない子供を奪つて行くことせう、その時あなたは必と、身も世もあげてそのお子さんを救はうとなさるにちがひありませんもの。心の心は、要らないどころか、大事で大事でならないものを、煩いなど、あんまり世間並みなことを仰言るな、あなたの恵まれた母の愛を、猶この上とも眞面目にお大切にさいまし。

あなたにお別れしてからの電車の中で、私は今夜はじめて乗越しといふ失敗をしました。晝のうち復習が出来なかつたものだから、せめて電車の中でもと思つて、動詞の語尾の變化に夢中になつてゐるうちに、いつか水道橋は過ぎてしまひ、ふと氣がついてみると、

もうお茶の水まで来てゐるのです。あまりの間抜けさに自分で自分にきまりわるく、すぐ引返さうかと思つたけれど、どうせもう後れたのだから、いつそ文法の時間をすましてからにしよう、そのまゝぶら／＼と電車通りへ歩き出しました。

駿河臺の少しものさびれたところに、活動の廣告の赤い行燈が、ぼつかりとついてゐたのが妙に頭に残りしました。なんだかそれが如何にもかう、初冬の一夜といふやうな感じを起させました。晝のうちはあんなにほか／＼と暖かくてゐながら、なんとなく袂をふく風がうそ寒く、去年のショールの藏ひ場所などを考へさせられたりしました。時候の變り目といふものは、妙に心細いやうな氣のするものですのね、これはあなたが不自由に暮してゐるからばかりではないでせうよ。私の手はいつの間にか腋の下に潜つてゐました。私は東明館前から右に折れて、譯もなく明るく賑やかな街の片側を、店々に添うて神保町の方へと歩いて行きました。ある唐物店の中からは、私の嫌いなものゝ一つ

である蓄音機の浪花節が、いやに不自然な聲を出して人足をとめようとしてゐましたが、誰もちよいと振りかへつたまゝでそゝく行き過ぎるのが、「もうぢきに冬が来るぞ、ぐづ／＼してはゐられやしない。」とでもいつてるやうに思へて、なんとなくものわびしい氣持がするのでした。

ふと繪葉書屋の表につり出した硝子張りの額の中に、見るともない眼をとめると、それはみんななにがし劇場の女優の繪葉書で、どれもこれもかね／＼見馴れた素顔のでした、今初めてつく／＼とそれを見れば、長い顔、丸い顔、眼のつったのや口の大きいのと、さまざまならにも、あしなべてみんなが年を取りましたこと。私は暫くたちどまつてぢいつとそれらの顔々を見まもりました。なんとなくあさましいやうな、情けないやうな氣がしみ／＼として來て、思はず知らず顔がそむけられました。あゝ、さまざまの批評に弄ばれながら、繪葉書の上に老いて行く女優達の顔！これらがやがて色もなく青もなくなつていつた時には一體どう

なるのでせう？ それはたとひ、虚榮に誤られたその不明が、その人々それ自身の罪であるとはいへ、所謂新時代の最初の犠牲だと思ひます。さうしてこれはただ人事ではないのでした。私達はよく自ら顧み、自らよく考へなければなりません。

私は歩きながらいろ／＼なことを考へさせられました「不良少女の没落」といふ標題の下に、私達が前後しての結婚を×誌あたりに落書されてから、みなもう九三年を過ぎました。K子さんがまづ母となり、あなたも間もなく母となりました。私は私で相變らず貧乏世帯の切り盛りに悩まされてゐます。けれど私達は決してそれを悔いることはなかつたと思ひます。それはある場合、ある心の状態の時には、さういふことも考へないではなかつたけれど、離婚をもつてその悔を償ふものだと決して思はなかつたらうと思ひます。自然主義の風潮に漂はされた年若い少女が（尤もこの自然主義は、新聞の三面記事に術語化されたものを指してゐません。その頃の生真面目は文壇の運動を言

つてゐます。從來の習慣の束縛を逃れながらも、猶何かを求め探してゐる時に、誰も一人としてその生命の綱を與へてくれるものはありませんでした。その光明のある方向さへも、誰も指さしてくれずものはなかつた。私達はどんなにその爲めに悶えてせう！その頃の風潮からは、たゞ破壊をのみ會得して、建設については一部一厘だにも學ぶことが出来なかつたのです。悶えて悶えて悶えてゐる心を、うはへの賑かさに紛はしてゐる寂しさを、人々はただ嘲笑の眼をもつて見ました。K子さんのその時分の歌に、わがはしやぎし心は晩秋の蔓草の如くから／＼と空鳴りするといふやうな意があつたやうに覺えてゐます。

多少私達に好意を持ってくれる人達は、日に／＼氣遣ひの眼をもつて私達に臨みました。それは私達の眞意を汲み取り得なかつたからなのでした「君達の娛樂ともならばし給へと美しき身を魂を投ぐ」といふあなたの歌をも誌上に見たその時の、なんともいふことのないその心持を、私はまだまづ／＼とおぼえてゐま

す。自ら不良少女と名乗ることによつて僅かに慰んでゐる心の底に、良心と貞操とを大切にいたわつてゐるのを、人々は（殊に男子に於て）見ねくことが出来ませんでした。

私達はたゞ／＼開放されるのをばかり望んだのではなかつた。何ものかを心にしつかとつかまなければならぬのでした。さうしてつかまう／＼とする要求が烈しくなればなるほど強くなつて來るのは、それに對する失望の心でした。私達は暗の中に手探りで何かを探し廻つてゐました、何を探すのかも知らずにたゞ探しました。今になつて思つてみれば、それは生きようとする要求に外なりませんでした。

女は弱いもの故にたやすく失望をし、そしてたやすく自棄にもなります。やがて私達にもそれがやつて來ました。殆ど危かつたその時、私達は自ら救ふために、十分にその力に疑ひを残しながらも、愛とその結婚に隠れ家を求めようとしてしました。

その頃雑誌「青鞥」は生れ、新しい女といふことが

大分やかましくなつてまゐりました。けれど私達は初めからそれを白目でみました。なぜならば、少しもそれらの運動や宣言に共鳴を感じる事が出来ませんしてから。ひそかに自分達の考へはもう舊いのだらうと肯きました。さうしてその舊さに満足を感じ、光榮を感じました。吾々は覺醒せりと叫ぶひまに、私達はなほ暗の中をわが生命の渴きのために、泉に近い濕りをさぐる愚かさを繰りかへすのでした。私達はとてもあの人達のやうな自信と誇りを持つことが出来なかつた。決して現在の自らの心の状態を是認することが出来なかつた。

さて私の結婚後の生活は、渦のやうにぐるぐると私どもを弄ばうとしました、今猶多少の渦はこの身邊を取り圍みつゝあるけれども、貧と心の悩みに鍛へぬかれた今(まだ全くはぬけ切らぬけれども)やうやくある落着きが私の心に芽を出しかけました。その芽は、くゝむものは、私の廣い深い愛でなければならぬのです。私はすづ第一に夫を愛しなければなりません。

てゐたあるものをつかんだやうな氣がするのです。それは全く私の心の要求から掘り起された泉でありました。自らを進んで犠牲にすることは、決して自らを殺すことではなかつた！と私はこの頃さう思つて安んじてゐます。

ふと氣がついてみると、私は今馬鹿に固くなつてこれを書いてゐました。若のや私の言ひ方があなたを説得するやうな調子になりはしなかつたかと思つて、私は今思はず面を赤らめてゐます。どうぞ、あなたに贈る手紙にことよせて、私がくづれ易い自分の努力を誠めてゐるものと、失禮をお許し下さい。

くれぐれも、境遇に向つて不平の吐きを洩す時は過ぎ去りました。私や子供のために、こんなに痩せながら働かなければならぬのだなんて、恩にばかり被せてゐるのよ」とと仰言つたあなたの美しい寂しい笑顔を、私は今思ひ浮べてゐます。ねえ、私達は漸くその恩を被ようではありませんか！さうして愛を豊かに持つことに努め、それをすべてに捧げることに、

けれども情けないほど私の愛はまだ浅いものです。私は自分の愛のいと小さく、浅く、狭いのを、恥ぢ、恐れ、嘆きます。私の今の苦しみは、私ん自分に希んでゐる愛の足りなさを、悲しむ心に外ならないのです。

また私の胸に和ぎの芽を植ゑをめたものは、一頻り私の臍を噛み刻んでゐたところの苦惱が生んだ、ある犠牲的な心でした。その心持は今、私をだん／＼と宗教的な方面に導かうとし、反動のやうに起つて來た道徳的な心は、日光となつて私の胸に平和の芽を育てます。けれども勿論穩かな日和ばかりは續きません、ある時は鳥が來て折角生えかけたその芽をついばみ、ある時は恐ろしい嵐があれ、根柢から何も彼もを覆してしまひます。恐ろしくその争闘は一生續きませう。けれども秋々の實りは、必ず何ものかを私に齎してくるものと信じてゐます。

私達はもと、道徳の形骸や、強ひられた犠牲やらを拒みましたけれども、今わが内心に新しく湧き起つて來た道徳的な感情をもつて、初めて闇の中に探り求め

決して自分の利益を考へないやうにと心掛けませう。

私はこれから一生懸命勉強をしようと思つてゐます。私がこんど六十の手習ひのやうな語學を初め出しましたのは、その第一歩のつもりなんです。私達は決して今のまゝで死んではいけません。その貧しさには決して堪へられませんか。私達はもう少し人間らしく生きなければなりません。今にもうすぐ私達の一生にも冬がまゐります。私達はこの若さの秋に於て、出来るだけの働きをしなければなりません。

今夜はどうも思ひがけない手紙を書いてしまひました。どうぞ御主人様によろしくお傳へ下さい。そしてまたお近いうちに是非お遊びにいらして下さいましではさよなら！